

PRODUCTION OF CUSTOMIZABLE TABLE

Patent number: JP2000207477
Publication date: 2000-07-28
Inventor: WADA SHIGEFUMI; NAKAYAMA SHIGERU;
 TAKAHASHI TOMOHISA; YAMAMOTO MASAHIRO;
 KIMURA KENJI
Applicant: OBIC BUSINESS CONSULTANTS LTD
Classification:
 - international: **G06F12/00; G06F19/00; G06F12/00; G06F19/00;**
 (IPC1-7): G06F19/00; G06F12/00
 - european:
Application number: JP19990008014 19990114
Priority number(s): JP19990008014 19990114

Report a data error here

Abstract of JP2000207477

PROBLEM TO BE SOLVED: To add the tables and rows with the consistency of relation kept between the tables and to attain the customization by using an initial dump file generation means which generates automatically a default dump file including all information on a data base on a prescribed path and in a prescribed file name when a work program is set up. **SOLUTION:** When the items to be added to a table A occur, an initial dump file WAKDATA which is generated by a selling/stocking management program and a DFO are loaded into an addition data base W. Then an additional table B is generated to the table A that desires to add the items to an addition data base WAKDEF, and an additional row is formed on the table B to store the desired items to be added. Otherwise, an additional row is formed on the table A to store the items to be added. Then the table set on the data base WAKDEF is backed up to the file WAKDATA and produced again, and the data base WAKDEF is erased.

販売・仕入管理プログラム	(図例)	データベース管理システム
セットアップ時初期ダンプ ファイル作成 マスク、伝票等テーブル作成	↓ コピー →	データベースV作成 逐次テーブル/関係保存
	テーブル 追加開始	
初期ダンプファイル 作成のパス名 STUPW\WTOPRES\DEF 所定のファイル名 WAKDATA.DFO	ロード →	追加用データベースW作成 [データベース名 WAKDEF] 追加用データベース WAKDEF
		追加したいテーブルに 項目の追加作業
作成後の初期ダンプファイル パス名 STUPW\WTOPRES\DEF ファイル名 WAKDATA.DFO	バック アップ →	追加後のデータベース WAKDEF データ??? WAKDEFUL.DF ログ??? WAKDEFUL.LF
		追加データベース WAKDEF を 消去する
次回から再作業の初期ダンプ ファイルに基づいてマスク、 伝票等のテーブル作成	コピー (注*) →	新データベースに変更された テーブルが反映された テーブルを管理保存

注* (次回から会社データの更新作業のとき或は再読テーブル追加のときにコピー開始)

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-207477

(P2000-207477A)

(43) 公開日 平成12年7月28日 (2000.7.28)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード [*] (参考)
G 0 6 F 19/00		G 0 6 F 15/22	Z 5 B 0 8 2
12/00	5 0 5	12/00	5 0 5

審査請求 有 請求項の数 8 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平11-8014

(22) 出願日 平成11年1月14日 (1999.1.14)

(71) 出願人 593089895

株式会社オービックビジネスコンサルタント

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号

(72) 発明者 和田 成 史

東京都新宿区西新宿7丁目22番地35号 株式会社オービックビジネスコンサルタント 内

(74) 代理人 100093399

弁理士 瀬谷 徹 (外2名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 カスタマイズ可能なテーブル作成方法

(57) 【要約】

【課題】 テーブル間の関連付けに整合性を保ってテーブルの追加、列の追加をできるようにし、よってユーザのカスタマイズを可能とするカスタマイズ可能なテーブル作成方法を提供する。

【解決手段】 業務プログラムをセットアップしたとき、データベースに関する総ての方法が含まれたデフォルトダンプファイルを自動的に所定パスに所定ファイル名で生成する初期ダンプファイル生成手段を備え、あるテーブルAに追加したい項目が発生した際は、初期ダンプファイルをロードし、追加用データベースに所定のファイル名を付与し、その追加用データベース上で追加したい項目を、追加テーブル列に入れて、テーブル名の先頭に追加テーブルであることを示す識別文字を付し、追加テーブルの中の追加列名の先頭に追加列であることを示す識別文字を付し、追加データベース上のテーブルの追加を行い、その追加したデータベース上のテーブルを初期ダンプファイルにバックアップして再作成する。

カスタマイズ可能なテーブル作成方法で
テーブルを追加する流れの概要図

図表・仕入数量プログラム	(手順)	データベース管理システム
セットアップ時初期ダンプ ファイル作成 マスク、伝票等テーブル作成	↓ コピー →	データベースV作成 逐次テーブル管理保存
	テーブル 追加開始	
初期ダンプファイル 所定のパス名 WTDWINDWTFP00000F 所定のファイル名 WADATA.DFO	ロード →	追加用データベースW作成 (データベース名 WADWTF) 追加用データベース WADWTF
		追加したいテーブルに 項目の追加作業
再作成の初期ダンプファイル パス名 WTDWINDWTFP00000F ファイル名 WADATA.DFO	バック アップ →	追加後のデータベース WADWTF データ???? WADWTF.DW ログ???? WADWTF.LF
		追加データベース WADWTF を 読み取る
次回から再作成の初期ダンプ ファイルを基にしてマスク、 伝票等のテーブル作成	コピー (注*) →	新データベースに変更された テーブルが反映された テーブルを管理保存

注* (次回から会社データの転送作業のとき或は再読テーブル追加のときにコピー作業)

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 互にコード関連付けた複数のテーブルを管理格納するデータベース管理システムを備えて企業の業務プログラムを遂行するコンピュータシステムのテーブル作成方法であって、

前記業務プログラムをセットアップしたとき、前記データベースに関する総ての情報が含まれたデフォルトダンプファイルを自動的に所定パスに所定ファイル名で生成する初期ダンプファイル生成手段を備え、

前記業務プログラムで生成したデータベース V の複数のテーブル中のあるテーブル A に追加したい項目が発生した際は、前記初期ダンプファイルを追加用データベース W に所定のファイル名を付与してロードし、次に、追加用データベース W 上でテーブル A に追加したい項目を、追加テーブル B に追加列として入れて行るか、或は、テーブル A の追加列に直接入れて行かのかのいずれかで行い、次に、追加テーブル B のテーブル名の先頭に追加テーブルであることを示す識別文字を付し、テーブル A 或は B 中の追加列名の先頭に追加列であることを示す識別文字を付して、追加用データベース W 上のテーブルの追加を行い、次に、その変更した追加用データベース W 上のテーブルを前記初期ダンプファイルにバックアップして再作成し、次に、追加用データベース W を消去し、さらにもし、再度テーブルを追加する場合は前記所定パス、所定ファイル名で格納された前記再作成初期ダンプファイルを又重新しく作成したデータベースにロードして以後前述した同様のステップを繰り返して行うことを特徴とするカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【請求項 2】 前記業務プログラムは販売・仕入管理プログラムであり、その販売・仕入管理プログラムは、そこで生成する少なくとも商品、得意先、仕入先の各マスタテーブルを関連付けるためにそれぞれ商品、得意先、仕入先の各コードを所定の桁数及びフォーマットでそれぞれのテーブルに書込むことによって関連付コードとし、また、会社住所のマスタはそれぞれ印刷フォーマットの異なる納品書用、請求書用、送り状用の 3 ファイルから構成されるが、それらを紐付にするために同一数字のコードをそれぞれの 3 つのテーブルに付与することによって差出名コードとすることを特徴とする請求項 1 記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【請求項 3】 前記販売・仕入管理プログラムは少なくとも商品、得意先、仕入先、担当者、倉庫マスタを有し、それらマスタはマスタ登録画面で入力する値を格納しておくメインテーブルと、伝票で入力された金額と数量を各月ごとに格納する前期と当期に分れた残高テーブルとからなり、それぞれ、商品、得意先、仕入先、担当者、倉庫の各コードで関連づけられていること特徴とする請求項 2 記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【請求項 4】 前記販売・仕入管理プログラムは少なく

とも売上、仕入、受注、発注、出荷の各伝票のテーブル構成において、各伝票はヘッド部と明細部の 2 テーブルからなり、これらテーブルを関連づけるための「通し番号」の列をヘッド部テーブルと明細部テーブルにそれぞれ付与し、明細は 1 ヘッドに対して複数あるので、複数明細の同じ「通し番号」にそれぞれ「明細 No」を付与したことを特徴とする請求項 2 又は 3 記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【請求項 5】 前記各マスタに付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、そのマスタのコードを追加テーブルの列に格納してそれらテーブル間を関連付けし、また、前記各伝票のヘッド部に付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、その「通し番号」を追加テーブルの列に格納してそれらヘッド部テーブル間を関連付けし、また、前記各伝票の明細部に付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、その「通し番号」と「明細 No」を追加テーブルの 2 列にそれぞれ格納して、それら明細部テーブル間を関連付けることを特徴とする請求項 4 記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【請求項 6】 前記業務プログラムは財務会計プログラムであり、その財務プログラムは少なくとも部門名、総勘定科目名、補助科目名の各マスタを有し、それらマスタはマスタ登録画面で入力する値を格納しておくメインテーブルと、伝票で入力された金額を各月毎に格納する前期と当期に分れた残高テーブルとからなり、それぞれ、部門コード、総勘定科目コード、補助科目コードで関連づけられていることを特徴とする請求項 1 記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【請求項 7】 前記財務会計プログラムの伝票テーブルは借方側と貸方側で、それぞれ前記部門コード、総勘定科目コード、補助科目コードが格納され、取引の内容が記録されると共に、伝票入力時に前記残高テーブルの更新が行われることを特徴とする請求項 6 記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【請求項 8】 前記業務プログラムは給与計算プログラムであり、その給与計算プログラムは社員マスタテーブルを有し、その社員マスタ登録画面で入力する値を格納しておくメインテーブルと、社員の給与計算結果、賞与計算結果、年末調整計算結果、社会保険計算結果を格納する金額テーブルとが、社員コードによって関連付けられていることを特徴とする請求項 1 記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はリレーショナルなデータベースを用いて企業の業務プログラム、例えば販売管理プログラムや仕入管理プログラムを遂行するコンピュータシステムのテーブル作成方法に関し、詳しくは互い関連付けられた多数のテーブルを管理格納しているデ

データベースを使用して業務プログラムを実行している際に、そのテーブル群の一つに項目を追加したい場合にそれに関連する他のテーブルに整合性のあるようにして項目を追加するためのカスタマイズ可能なテーブル作成方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来から企業の業務を遂行する販売・仕入管理などの業務プログラムを、データベース管理システムを備えたコンピュータシステムにローディングして行っていたが、これらの業務プログラムは通常は市販されているソフトウェアであり、ユーザがそれをローディングして使用する。従って、ユーザがその業務プログラムの使用にあたって例えば、登録入力画面で追加したい項目があっても、そのためにテーブルや列を追加することはできない。すなわち、ユーザがカスタマイズするのは不可能であった。テーブルや列の追加ができない一番大きな理由は互に関連付けられた多数のテーブルが格納されているデータベースを使用しているため、その中の一つのテーブルに列を加え追加したい項目を書込んでもシステムとしては認識できず、それに関連する他のテーブルは変更されないため整合性が失われる。新しくテーブルを追加し、それに追加したい項目を入力しても、そのオリジナルテーブルと、それに関連した他のテーブルは追加テーブルに関連していない。従ってデータベース管理システムとしての機能は不完全となる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は前述した点を鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、テーブルや列の追加がなされても、当初よりユーザに提供されている業務プログラムが正常に動作することを保証できるようにテーブル作成処理に一定の制限や規則を設ける。これに従ってテーブル群を作成することによりテーブル間の関連付けに整合性を保ってテーブルの追加、列の追加を可能にしユーザのカスタマイズを可能にし、業務プログラムのバージョンアップにも対応できるカスタマイズ可能なテーブル作成方法を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、本発明のカスタマイズ可能なテーブル作成方法は、互にコード関連付けた複数のテーブルを管理格納するデータベース管理システムを備えて企業の業務プログラムを遂行するコンピュータシステムのテーブル作成方法であって、前記業務プログラムをセットアップしたとき、前記データベースに関する総ての情報が含まれたデフォルトダンプファイルを自動的に所定パスに所定ファイル名で生成する初期ダンプファイル生成手段を備え、前記業務プログラムで生成したデータベースVの複数のテーブル中のあるテーブルAに追加したい項目が発生した際は、前記初期ダンプファイルを追加用データベースWに

所定のファイル名を付与してロードし、次に、追加用データベースW上でテーブルAに追加したい項目を、追加テーブルBに追加列として入れて行かうか、或は、テーブルAの追加列に直接入れて行かうかのいずれかで行い、次に、追加テーブルBのテーブル名の先頭に追加テーブルであることを示す識別文字を付し、テーブルA或はBの中の追加列名の先頭に追加列であることを示す識別文字を付して、追加用データベースW上のテーブルの追加を行い、次に、その変更した追加用データベースW上のテーブルを前記初期ダンプファイルにバックアップして再作成し、次に、追加用データベースWを消去し、さらにもし、再度テーブルを追加する場合は前記所定パス、所定ファイル名で格納された前記再作成初期ダンプファイルを又新しく作成したデータベースにロードして以後前述した同様のステップを繰り返して行うことを特徴とする。

【0005】また、前記業務プログラムは販売・仕入管理プログラムであり、その販売・仕入管理プログラムは、そこで生成する少なくとも商品、得意先、仕入先の各マスタテーブルを関連付けるためにそれぞれ商品、得意先、仕入先の各コードを所定の桁数及びフォーマットでそれぞれのテーブルに書込むことによって関連付コードとし、また、会社住所のマスタはそれぞれ印刷フォーマットの異なる納品書用、請求書用、送り状用の3ファイルから構成されるが、それらを紐付けるために同一数字のコードをそれぞれの3つのテーブルに付与することによって差出名コードとすることを特徴とする。

【0006】また、前記販売・仕入管理プログラムは少なくとも商品、得意先、仕入先、担当者、倉庫マスタを有し、それらマスタはマスタ登録画面で入力する値を格納しておくメインテーブルと、伝票で入力された金額と数量を各月ごとに格納する前期と当期に分れた残高テーブルとからなり、それぞれ、商品、得意先、仕入先、担当者、倉庫の各コードで関連づけられていること特徴とする。

【0007】また、前記販売・仕入管理プログラムは少なくとも売上、仕入、受注、発注、出荷の各伝票のテーブル構成において、各伝票はヘッド部と明細部の2テーブルからなり、これらテーブルを関連づけるための「通し番号」の列をヘッド部テーブルと明細部テーブルにそれぞれ付与し、明細は1ヘッドに対して複数あるので、複数明細の同じ「通し番号」にそれぞれ「明細No」を付与したことを特徴とする。

【0008】また、前記各マスタに付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、そのマスタのコードを追加テーブルの列に格納してそれらテーブル間を関連付けし、また、前記各伝票のヘッド部に付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、その「通し番号」を追加テーブルの列に格納してそれらヘッド部テーブル間を関連付けし、また、前記各伝票の明

10

20

30

40

50

細部に付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、その「通し番号」と「明細No」を追加テーブルの2列にそれぞれ格納して、それら明細部テーブル間を関連付けることを特徴とする。

【0009】また、前記業務プログラムは財務会計プログラムであり、その財務プログラムは少なくとも部門名、総勘定科目名、補助科目名の各マスタを有し、それらマスタはマスタ登録画面で入力する値を格納しておくメインテーブルと、伝票で入力された金額を各月毎に格納する前期と当期に分れた残高テーブルとからなり、それぞれ、部門コード、総勘定科目コード、補助科目コードで関連づけられていることを特徴とする。

【0010】また、前記財務会計プログラムの伝票テーブルは借方側と貸方側で、それぞれ前記部門コード、総勘定科目コード、補助科目コードが格納され、取引の内容が記録されると共に、伝票入力時に前記残高テーブルの更新が行われることを特徴とする。

【0011】また、前記業務プログラムは給与計算プログラムであり、その給与計算プログラムは社員マスタテーブルを有し、その社員マスタ登録画面で入力する値を格納しておくメインテーブルと、社員の給与計算結果、賞与計算結果、年末調整計算結果、社会保険計算結果を格納する金額テーブルとが、社員コードによって関連付けられていることを特徴とする。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図に基づき説明する。図1は本発明のカスタマイズ可能なテーブル作成方法を使用した一実施の形態のブロック図を示す。ここで、10は企業のコンピュータシステム、1はその端末群、4はデータベース管理システムを示し、その中に複数のデータベース40が作成され、また、そのデータベース40にはそれぞれ複数のテーブル（或はファイルとも称される）41がある。尚、データベース管理システム4には例えばマイクロソフト社のSQL7.0或はオラクル社のORACLE8.0などがある。

【0013】5はローカル・エリア・ネットワーク（LAN）などであり例えば100BASEなどの伝送ケーブル、6はウィンドウズ（WINDOWS）NTなどをOSとするサーバーである。尚、61はデータベース管理システムのプログラムである。

【0014】また、前記端末1には、それぞれウィンドウズNT、95、98などのOSで動作しており企業の業務を遂行するプログラム手順を記録した販売・仕入管理の業務プログラム12がロードされている。また、他の端末1にはそれぞれ他の業務プログラム例えば経理処理、給与計算など13、14…がロードされている。

【0015】次に、図2は本発明のカスタマイズ可能なテーブル作成方法の流れを説明する図を示してある。図2にそって図1を用いてテーブルを追加する方法を説明

する。

【0016】販売・仕入管理プログラム12をセットアップすれば初期ダンプファイル生成手段12aにより自動的に初期ダンプファイル12bが所定のパス名、例えばフォルダ名¥TOPWIN¥TOPHS¥DEFの下にファイル名¥WAKDATA.DFOで生成される。その初期ダンプファイル12bに基づいて入力作業が行われ、多数のテーブルが生成され、逐次データベースVに蓄積保存されて行く。

10 【0017】ここで、多数のテーブルの中の一つのテーブルAに追加したい項目が発生した際は、販売・仕入管理プログラム12で生成されている初期ダンプファイルWAKDATA.DFOを追加用データベースWにロードする。この追加用データベースWはロード命令により自動的に生成される。その追加用データベース名をWAKDEFとする。次に、追加用データベースWAKDEF上で項目を追加したいテーブルAに対して次のように2つの追加方法がある。一つの方法は追加テーブルBを生成してその中に追加列を作り、それに追加したい項目20 を入れる。他の方法はテーブルAの中に追加列を作り、そこへ追加したい項目を入れる。ファイル処理速度を考えると前者の方を選ぶ方が望ましい。次に、追加テーブルBのテーブル名の先頭に追加テーブルであることを示す識別文字“T_”を付し、テーブルA或はBの追加列の先頭に追加列であることを示す識別文字“C_”を付して、追加用データベースWAKDEF上のテーブルの追加を行う。次にその追加したデータベースWAKDEF上のテーブルを前記初期ダンプファイルにバックアップして再作成し、次に追加用データベースWAKDEF30 を消去する。次回から会社データの新規作成のときにはコピーを開始して、新しいデータベースに追加されたテーブルが反映されたテーブルが蓄積保存される。

【0018】以上の操作で、追加テーブルと追加列は関連付けられたものとなり、ユーザはこの方法でテーブルと列の追加を可能にして、カスタマイズ可能にできる。また追加テーブルや追加列には識別文字が付してあるため、業務プログラムのバージョンアップにも対応できる。

【0019】次に、もし、さらに再度テーブルを追加する場合は前記所定パス名、例えばフォルダ名¥TOPWIN¥TOPHS¥DEFの下にファイル名¥WAKDATA.DFOで格納された前記再作成初期ダンプファイルをロードした新しく作成したデータベースを作成して、以後前述した課程を繰り返して行えば、再び追加テーブル、追加列を関連付けられたものとして行うことができる。

【0020】また、販売・仕入管理プログラムが生成する商品、得意先、仕入先…等の各マスタテーブルを関連付けるため、それぞれ商品、得意先、仕入先…等の各コードを所定の桁数13桁とし、入力されたものが全て数

字の場合入力された値の前を0（ゼロ）をセットし13桁とし、一方、入力されたものが数字以外のものがある場合は入力された値の後ろに「スペース」をセットして13桁として関連付コードとする。（図3参照）

【0021】また、会社住所のマスタはそれぞれフォーマットの異なる納品書用、請求書用、送り状用の3テーブルから構成されるが、それらを紐付にするために同一数字のコードを3つのそれぞれのテーブルに付与することによって、差出名コードとする。（図4参照）

【0022】また、前記販売・仕入管理プログラムの商品、得意先、仕入先、担当者、倉庫の各マスタはそれぞれマスタ登録画面で入力する値を格納しておくメインテーブルと、伝票で入力された金額と数量を毎月ごとに格納する前期と当期に分れた残高テーブルの3テーブルからなり、それぞれメインテーブル、前期残高テーブル、当期残高テーブルは商品、得意先、仕入先、担当者、倉庫の各コードで関連づける。

【0023】また、前記販売・仕入管理プログラムは売上、仕入、受注、発注、出荷等の各伝票・構成商品・契約書のテーブル構成においては、各伝票・構成商品・契約書はそれぞれヘッド部と明細部の2テーブルからなり、これらテーブルを関連づけるための「通し番号」を書込む列をヘッド部テーブルと明細部テーブルにそれぞれ付与する。しかし明細は1ヘッドに対して複数あるので、明細部では複数の明細の同じ「通し番号」に対しさらにそれぞれ「明細No」を付与する。

【0024】また、各マスタに付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、そのマスタのコードを追加テーブルの列に格納して、それらテーブル間を関連付ける。（図5参照）

【0025】また、前記各伝票・構成商品・契約書のヘッド部に付加情報を格納するため前記追加テーブルを生成したときは、その「通し番号」を追加テーブルの列に格納して、それらヘッド部テーブル間を関連付ける。（図6参照）

【0026】また、前記各伝票・構成商品・契約書の明細部に付加情報を格納するための前記追加テーブルを生成したときは、その「通し番号」と「明細No」を追加テーブルの2つの列にそれぞれ格納してそれら明細部テーブル間を関連付ける。（図7参照）

【0027】

【発明の効果】本発明のカスタマイズ可能なテーブル作成方法は次のような効果を奏する。

（1）セットアップした際に作成される初期ダンプファイルを使用して、新たに独自の初期ダンプファイルを再作成しておけば、業務プログラムで生成されるテーブル群の中のテーブルや列に追加を行っている場合には、その追加したテーブルや列のデータの読み込みや追加したテーブルと列への書き込みが可能となる。

【0028】（2）また、上記の処理を行えば、業務プログラムで新規会社を作成したときにも、初期ダンプファイルに追加しているテーブルや列が反映された新規の会社が作成できる。

【0029】（3）ユーザの操作で業務プログラムのテーブルや列の追加が可能となるので、業務プログラムに対するユーザによるカスタマイズが可能となる。

【0030】（4）追加したテーブルや追加した列には識別文字が付してあるため、業務プログラムのバージョンアップにも対応可能となる。

【0031】（5）テーブルや列の追加がなされても、当初よりユーザに提供されている業務プログラムが正常に動作することが保証できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のカスタマイズ可能なテーブル作成方法を使用した一実施の形態のブロック図である。

【図2】本発明のカスタマイズ可能なテーブル作成方法でテーブルを追加・変更する流れ図である。

【図3】商品、得意先、仕入先各マスタテーブルに関連付ける関連付コードの格納例を説明する図である。

【図4】納品書用、請求書用、送り状用の3テーブルを紐付にするための差出名コードを使用した例を示す図である。

【図5】各マスタに追加テーブルを生成したとき、そのマスタのコードを追加テーブルの列に格納して、そのテーブル間を関連付ける説明図である。

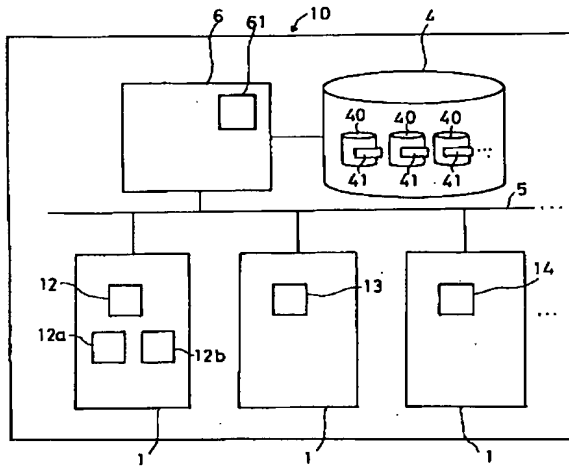
【図6】各伝票のヘッド部に追加テーブルを生成したとき、その「通し番号」を追加テーブルの列に格納して、それらを関連付ける説明図である。

【図7】各伝票の明細部に追加テーブルを生成したとき、その「通し番号」と「明細No」とを追加テーブルの2列に格納して関連付ける説明図である。

【符号の説明】

- A テーブル
- B 追加テーブル
- V データベース
- W 追加用データベース
- 1 端末
- 4 データベース管理システム
- 5 LAN
- 6 ウィンドウズNTサーバ
- 10 企業のコンピュータシステム
- 12 販売・仕入管理の業務プログラム
- 12a 初期ダンプファイル生成手段
- 12b 初期ダンプファイル
- 13, 14 他の業務プログラム
- 40 データベース
- 41 テーブル（ファイル）
- 61 データベース管理システムのプログラム

【図1】



【図3】

<入力されたものが全て数字の場合>
 入力された値の前に「0」をセットして13桁にする。
 例) 入力された文字が「1234」の場合
 「0000000001234」としてテーブルにセットする。

<入力されたものに数字以外のものがある場合>
 入力された値の後ろに「スペース」をセットして13桁にする。
 例) 入力された文字が「1A」の場合
 「1A 」(後ろスペース11桁)としてテーブルにセットする。

【図2】

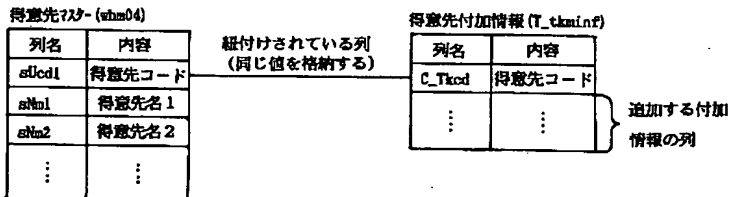
カスタマイズ可能なテーブル作成方法で
 テーブルを追加する流れの要約図

画面・仕入管理プログラム	(時間)	データベース管理システム
セットアップ時初期ダンプ ファイル作成 マスク、伝票等テーブル作成	↓ コピー →	データベースV作成 逐次テーブル情報保存
	テーブル 追加開始	
初期ダンプファイル 所定のパス名 %TOPWIN%TOPDEF 所定のファイル名 %KADATA.INFO	ロード →	追加用データベースW作成 (データベース名 %KADDEF) 追加用データベース %KADDEF
		追加したいテーブルに 項目の追加作業
再作成の初期ダンプファイル パス名 %TOPWIN%TOPDEF ファイル名 %KADATA.INFO	バック アップ →	追加後のデータベース %KADDEF データ??? %KADDEF%.DEF ログ??? %KADDEF%.LOG
		追加データベース %KADDEF を 閉じる
次回から再作成の初期ダンプ ファイルをもとにしてマスク、 伝票等のテーブル作成	コピー (注*) →	新データベースに書き込まれた テーブルが反映された テーブルを情報保存

注* (次回から会社データの新規作成のとき或は再度テーブル追加のときにコピー開始)

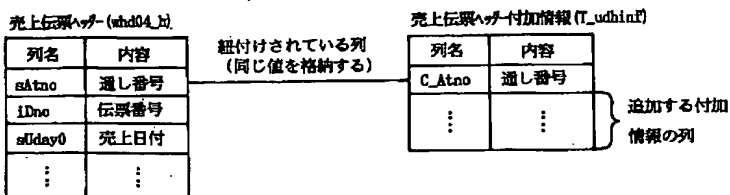
【図5】

例) 得意先マスターに付加情報のテーブル「T_tkminf」を追加する場合

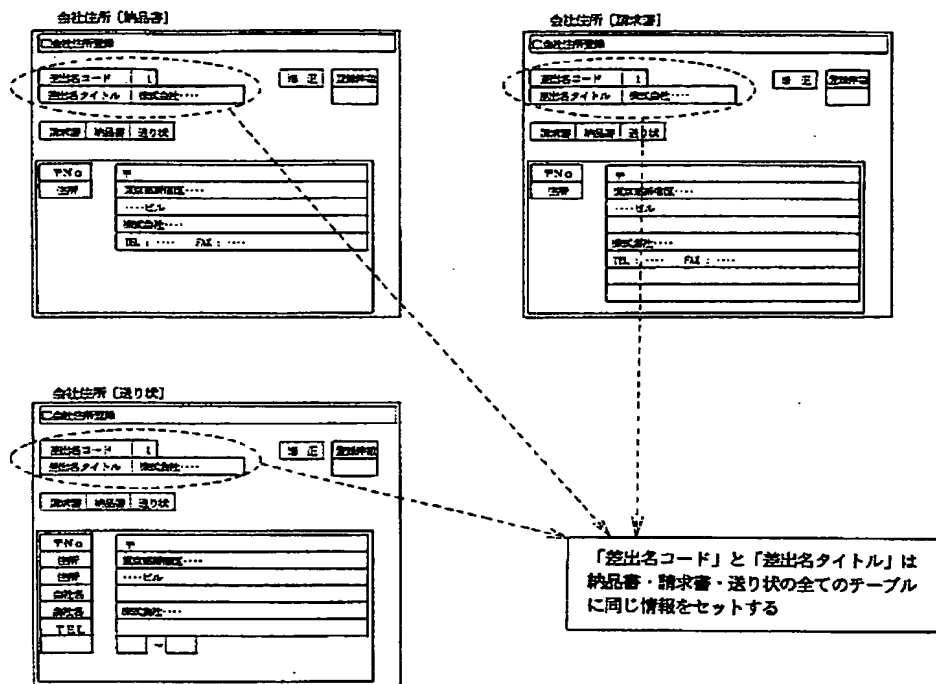


【図6】

例) 売上伝票ヘッダーに付加情報のテーブル「T_udhinf」を追加する場合

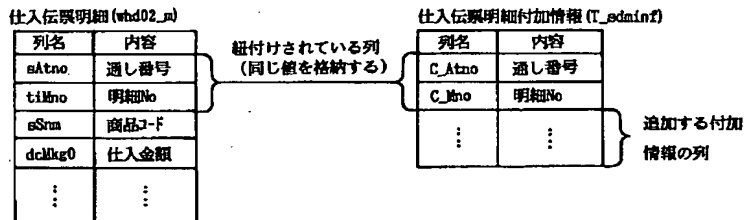


【図4】



【図7】

例) 仕入伝票明細に付加情報のテーブル「T_adminf」を追加する場合



【手続補正書】

【提出日】平成12年1月27日(2000. 1. 27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項2】 前記業務プログラムは販売・仕入管理プログラムであり、その販売・仕入管理プログラムは、そこで生成する少なくとも商品、得意先、仕入先の各マスターテーブルを関連付けるためにそれぞれ商品、得意先、

仕入先の各コードを所定の桁数及びフォーマットでそれぞれのテーブルに書込むことによって関連付コードとし、また、会社住所のマスターはそれぞれ印刷フォーマットの異なる納品書用、請求書用、送り状用の3ファイルから構成されるが、異なるフォーマットでも同一会社の住所であることを識別できるように、それらを結び付ける同一数字のコードをそれぞれの3つのテーブルに付与することによって差出名コードとすることを特徴とする請求項1記載のカスタマイズ可能なテーブル作成方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】また、前記業務プログラムは販売・仕入管理プログラムであり、その販売・仕入管理プログラムは、そこで生成する少なくとも商品、得意先、仕入先の各マスターテーブルを関連付けるためにそれぞれ商品、得意先、仕入先の各コードを所定の桁数及びフォーマットでそれぞれのテーブルに書き込むことによって関連付コードとし、また、会社住所のマスターはそれぞれ印刷フォーマットの異なる納品書用、請求書用、送り状用の3ファイルから構成されるが、異なるフォーマットでも同一会社の住所であることを識別できるように、それらを結び付ける同一数字のコードをそれぞれの3つのテーブルに付与することによって差出名コードとすることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正内容】

【0013】5はローカル・エリア・ネットワーク(LAN)などであり例えば100BASEなどの伝送ケーブル、6はウィンドウズNT(マイクロソフト社の登録商標)などをOSとするサーバーである。尚、61はデ*

*データベース管理システムのプログラムである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】また、前記端末1には、それぞれウィンドウズNT、95、98(マイクロソフト社の登録商標)などのOSで動作しており企業の業務を遂行するプログラム手順を記録した販売・仕入管理の業務プログラム12がロードされている。また、他の端末1にはそれぞれ他の業務プログラム例えば経理処理、給与計算など13、14…がロードされている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正内容】

【0021】また、会社住所のマスターはそれぞれフォーマットの異なる納品書用、請求書用、送り状用の3テーブルから構成されるが、異なるフォーマットでも同一会社の住所であることを識別できるように、それらを結び付ける同一数字のコードを3つのそれぞれのテーブルに付与することによって、差出名コードとする。(図4参照)

フロントページの続き

(72)発明者 中山 茂

東京都新宿区西新宿7丁目22番地35号 株式会社オービックビジネスコンサルタント 内

(72)発明者 高橋 知久

東京都新宿区西新宿7丁目22番地35号 株式会社オービックビジネスコンサルタント 内

(72)発明者 山本 昌弘

東京都新宿区西新宿7丁目22番地35号 株式会社オービックビジネスコンサルタント 内

(72)発明者 木村 謙二

東京都新宿区西新宿7丁目22番地35号 株式会社オービックビジネスコンサルタント 内

Fターム(参考) 5B082 DE07 EA07 GB06 HA03